

編集後記：“執筆という行為から得られるもの。”

短くない時間を使ってわざわざ何かを執筆し、得られるものは、みなさんにとってどのようなものでしょうか？

私にとってのその答えは、「良質な出会い(再会も含む)」です。

論文、解説、支部だより、本だな、といった「天気」でもおなじみの記事は勿論のこと、ホームページやブログ、Facebook、あるいは書籍や報道発表など、どんなメディアであれ、文字に残しておくことで出会いの種を蒔いておくことができます。面白いのは、執筆した文章をきっかけにして出会う方は、初対面のような感じがしないことが多い気がするのですが、こんな感覚は私だけでしょうか？

逆の立場で考えてみると、私もある論文をきっかけにそれまで知らなかった研究者に話しかける、ということがあります。このとき、私からみれば既に文章や図を通じて一度「出会っている」ので、少なくとも何も知らない初対面よりもずっと親近感や敬意を抱いていたりするのです。そうしたプラスアルファの親近感や敬意を持って出会う相手との会話は、より生産的になったり建設的になったりすることが多いのです。

そしてこれは、再会の場合にも当てはまります。少し長い時間会っていなくても、文章を通じて会っている頻度が多い相手とは、再会のとときの会話の質がいい

意味で全く違うものになります。それらが明らかに自分を大きく変え、成長させてくれ、同じはずの景色の見え方が良い方向に変わっていきます。

つい最近まで私は、執筆を通じて自分に何が得られるのかを、正直言ってあまり明確に把握していませんでした。しかし、とある長めの文章の執筆を終えて、それまで書いてきた様々な形態の文章の全てに共通した意義があったことに気付きました。自分の書いた文章を読む、読んで感想を持つ、私を含めた誰かにそれを伝える、それをきっかけにした新しい提案を考える、新しい提案を実現しようと準備する…。そうした膨大な時間的対価を払って下さった方々との出会いは、全て私にとっての本当に大事なもののばかりです。

“執筆という行為から得られるもの。”

ほんやりとそれが重要であることは分かっていますが、以前は、一言ではっきり答えられませんでした。でも今なら「良質な出会い(再会も含む)」だと即答できます。

これまでのたくさんの出会いに改めて感謝し、みなさんにとっても「天気」がよりよい出会いを生む場となるよう、役割を果たしていきたいと思っています。今後も様々な記事のご投稿を、編集委員の1人としてとても楽しみにしております。

(茂木耕作)